

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	千葉 茂	〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉 茂	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
工業	工科技術専門課程	建築設計科		平成9年文部科学省認定	—																						
学科の目的	建築・住宅・インテリアの専門家の育成をめざし、それぞれの分野に関する総合的な知識、専門的な技術、技術者として必要な理論等について学び、それらを備え持った建築技術者を育てる。また、企業等との密接な連携により、最新の実務の知識、技術、技能等を身につけることで、より実践的な職業教育の質を確保する。近年の社会的ニーズに対応するべく、専攻にて専門性を高め、さらにデジタル教育も推進し、社会に求められる人材を育成します。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1,800	780	240	1,320	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
240人	183人	2人	5人	24人	29人																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																							
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日		卒業・進級条件	【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。		課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展覧会、ボランティア活動、ソフトウェアベンダーなどが主催する建築関連のイベント、インターンシップ ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 清水建設(株)、タマホーム(株)、大豊建設(株)、松井建設(株)、東日本ハウス(株)、(株)朝日工業社、工藤建設(株)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級建築施工管理技術検定(学科)</td> <td>②</td> <td>133人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス検定能力検定</td> <td>③</td> <td>134人</td> <td>98人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター</td> <td>③</td> <td>122人</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>商業施設士補</td> <td>③</td> <td>27人</td> <td>27人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	二級建築施工管理技術検定(学科)	②	133人	50人	ビジネス検定能力検定	③	134人	98人	福祉住環境コーディネーター	③	122人	33人	商業施設士補	③	27人	27人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
二級建築施工管理技術検定(学科)	②	133人	50人																								
ビジネス検定能力検定	③	134人	98人																								
福祉住環境コーディネーター	③	122人	33人																								
商業施設士補	③	27人	27人																								
■就職指導内容 合同企業説明会、個別企業説明会、業界研究会、個人面談を経て自己分析、履歴書作成、面接練習などを行う		■卒業生数 123 人 ■就職希望者数 88 人 ■就職者数 88 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 71 % ■その他 ・進学 27人 (建築学科3年次編入学、大学編入学)		①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																							
(令和3年度卒業生に関する 令和4年5月1日 時点の情報)				■自由記述欄																							

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 6名 ■中退率 2%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者246名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者233名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 病気、療養、就職、経済的理由</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度</p> <p>【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度(成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留學生特待生)</p> <p>【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度</p> <p>【留學生特別給付制度】 私費留學生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度</p> <p>【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度</p> <p>【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度(入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除)</p> <p>【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 <a href="http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/">http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</a></p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p><a href="https://www.neec.ac.jp/department/">https://www.neec.ac.jp/department/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留學生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携体制を確保して、授業科目等の開設、その他の教育課程を編成する。そのため、校内の実習設備や施設等を活用し、派遣された講師による年間を通じた定期的な指導や評価を受けることができる体制をとることが可能な企業等を建設業界より選定している。建設業界では必須となりつつあるBIM(Bilding Information Modelig)の技術や継承すべき伝統技術などを学生に伝え、未来を担う建設人材の育成に取り組む。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。  
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
梅干野 晁	東京工業大学 名誉教授	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	②
出口 賢一	株式会社久米設計 業務本部企画部主管	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
菊池 栄光	株式会社田中建設 総務部次長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
小林 猛	日本工学院八王子専門学校 科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月27日 15:10～17:10 オンライン

第2回 令和4年3月10日 15:10～17:10 オンライン

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

卒業後に、再度、学校にもどり、BIM等の学習を再度履修するということについては、とても良いと思う。会社に入ってから必要なスキル、そこに至るまでのベースの基礎知識、技術などを習得できる場をつくるというのは、とても良いと思う。ひと昔と現在では、建築分野、仕事の仕方も変わり、情報をあつかうという点で、幅広い知識を得ていく教育の場があるのは良いという意見をいただいた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。また、実践的な課題制作を行うために、建築業界等に精通し、専門的かつ実践的な知識、技術を持った講師派遣等の協力が得られることが可能な企業を選定している。企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
1年次「設計製図1」「建築CAD1」、2年次「設計製図3」「建築CAD3」「卒業制作」において、建築設計に必要な広範な知識、実務に必要とされる設計技法、建築現場における実務的訓練等についての業界の情報等に基づき、課題設定、実習計画を策定し、講師の評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
設計製図1	製図の基礎を習得し、住宅課題を通して、人体寸法や、小空間の設計をはじめ、多くの事例と共に設計の基礎、広範な知識を身に付ける。	建築研究所 ラヴィータ
建築CAD1	CADソフトを使用し、基本的な作図方法から、3Dモデルを作成するまでを学習する。自らの考えをデジタル技術を使用し、他者へ伝えるプレゼンテーションまでを学習し、レイアウトの精度を向上させる。	Atelier Y'z
設計製図3	実務に即した法規や用途にあった建築計画や外部環境と調和したデザインを学習する。建築用途に縛られず、調査から問題を浮き彫りにし、解決するためのプログラムを解きながら設計を行っていく手法を学習する。	塚田裕之建築設計事務所
建築CAD3	CAD/CGソフトを使用し、建築の三次元モデルで作成した空間を使ったシミュレーションや形態の検討を行なう。また最新のプレゼンテーションを行うために、三次元モデルを基に映像の作成方法なども学ぶ。	一級建築士事務所 インターコア
設計製図4	2年間の集大成としての設計課題を仕上げるために、調査・研究を行い、自らの設定した課題に対しての問題を解決する。自らが設定した問題に対して問題を解決する。また、実物大の模型、有名建築物の調査・研究、施工図・設備計画を行う。	国際ローヤル建築設計 一級建築士事務所

### 3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「多様な分野における3D都市モデル活用ユースケースの紹介」

(連携企業等:株式会社三菱総合研究所 SRU スマート・リージョン本部)

期間:令和3年10月8日

対象:テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科 教員

これからさらに加速する建築分野の先端技術導入。そこでは3D都市モデル活用人材の育成に向けてどのようなことが必要となるのか、PLATEAUで多くのユースケースに携わる三菱総合研究所を招き、研修を行った。教育プログラムには、シーズ(3D都市モデル)とニーズ(社会・地域・ビジネス上の課題等)の両方の観点が必要で、個々人が基本的な知識・ノウハウを身につけるとともに、多様な専門人材どうしでコラボレーションができることが重要(都市・建築、情報通信、人間工学、映像・メディア、ゲーム、ビジネス等)。座学に加え、具体的な課題解決・サービス開発にチームで取り組む実習型のプログラムが有効ではないだろうか。

研修名「熱・気流シミュレーションソフト「FlowDesigner」VRによる環境設計提案」

(連携企業等:株式会社アドバンスドナレッジ研究所 ソリューション技術部)

期間:令和3年12月3日

対象:テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科 教員

建築・まちづくり分野では気候変動や地球環境保護が今後多変重要な要素になっていく。先端技術を活用することで環境の可視化が可能となり、主体的に環境に配慮した設計や建築が生まれるのではないだろうか。そのような観点から授業でVR等を使用した環境の可視化授業を展開するために必要な技術を習得する。FlowDesigner は熱流体シミュレーションの専門知識を有する研究者だけでなく一般の設計者にも、より身近に、より手軽に活用できるソフトウェアで、シミュレーションの醍醐味は「思いついたアイデアをすぐに何度でも試せる」ことと、その手軽さが設計のフロントローディングを実現可能なものにするように考えた。

研修名:デジタル技術を利用したICT教育の手法

(連携企業:株式会社博報堂DYホールディングス)

期間:令和4年2月10日

対象:テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、土木造園科 教員

建築・土木分野においては近年、デジタル技術の進歩が目まぐるしく建築分野ではBIM、土木分野ではi-Constructionといった技術が現場レベルでも定着しつつある。また、同様にiPadでの現場管理や進捗管理、予算執行状況の確認、発注まで行えるアプリケーションも流行している。そこで、日頃指導している学生が卒業後に行う仕事について理解することで、より具体的な就職・進路指導が可能となると判断し、先端技術の事例や活用方法を学ぶことを目的とする。実空間(フィジカル空間)とサイバー空間を融合させた新たなコミュニケーション体験構築プロジェクト「GIBSON(ギブソン)」の一環として、丸の内エリア(大手町・丸の内・有楽町)において観光・買い物・イベント用途での体験価値検証のためのAR/VR実証実験、サイバー空間への360°映像配信、ローカル5G回線等を活用した本実証により、実空間変化をサイバー空間内にリアルタイム伝送することが体験者により臨場感をもたらすことが可能となり、ICT技術を教育に利用可能とする基礎は確立しつつあると感じる研修であった。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「Withコロナ時代を乗り越える!! ～志望意欲を高める育成型広報と入学前教育～」

(連携企業等:株式会社進研アド 営業本部 専門学校事業部)

期間:令和3年08月3日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

高等教育機関を取り巻く環境変化から、志望意欲を高めるためのアプローチ、入学前教育の指導体制について、事例を元に紹介された。

研修名「学びを促すルーブリック」

(連携企業等:大阪大学)

期間:令和3年11月17日、令和4年2月16日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

基礎編「ルーブリックの意義と作成方法」、応用編「ルーブリックの点検と改善」、グループワークを通じて、学生評価へのルーブリックの導入、作成方法、点検・改善について学んだ。

研修名「学生指導(メンタル面)における対応について」

(連携企業等:東京工科大学医療保健学部)

期間:令和3年12月7日

対象:日本工学院八王子専門学校教員

コロナ禍において、学生メンタルでの学生指導を事例を通じ、対応方法を学んだ。

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「デジタルファブリケーションの教育活用とその成果の活用」

(連携企業等: 検討中)

期間: 令和4年10月実施予定

対象: テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科 教員

3Dプリンタやレーザーカッターなど建築教育にデジタルファブリケーションの活用が始まり数年経つ。そこで、教育的実践者として広く活動する方の講演会、またはディスカッションを行うことで学習の理解を助ける活用方法を検討する。

研修名「建築教育のパターンランゲージワークショップ」

(連携企業等: 検討中)

期間: 令和4年12月実施予定

対象: テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科 教員

新しい建築教育を開発するにあたり、建築教育を「専門力」、「創造力」、「協働力」、「課題解決力」、「分野横断力」等のいくつかのキーワードをもとに科目を分類し、効果的な科目配置や科目関連を検討し、カリキュラムに反映する。

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: デジタル技術を利用したICT教育の手法

(連携企業: 検討中)

期間: 令和5年2月実施予定

対象: テクノロジーカレッジ 建築設計科/建築学科、土木造園科 教員

建築・土木分野においては近年、デジタル技術の進歩が目まぐるしく建築分野ではBIM、土木分野ではi-Constructionといった技術が現場レベルでも定着しつつある。また、同様にiPadでの現場管理や進捗管理、予算執行状況の確認、発注まで行えるアプリケーションも流行している。そこで、日頃指導している学生が卒業後に行う仕事について理解することで、より具体的な就職・進路指導が可能となると判断し、先端技術の事例や活用方法を学ぶことを目的とする。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

#### (1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

#### (2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価等(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価(35) 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

### (3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。
- ・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかったのも、関連する内容には入れても良いと思います。
- ・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。
- ・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。
- ・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思います(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。
- ・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気をもたらるものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。
- ・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思いますが、制作室や実習等の新設などの取組みによって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場で必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりびと」を多く輩出していただきたいと思います。
- ・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントになるのではないかと思います。
- ・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。
- ・株主総会もオンラインの時代ですので保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。
- ・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げてください。
- ・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思います。メンタルトレーニング的なものも取り入れても良いかと思います。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

### (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/ IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

### (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和4年9月30日

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(工科技術専門課程建築設計科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル	自分の適性を理解し、社会人としての心構えについて学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
2			○	スポーツ実習1	様々なスポーツの実習を開講します。	1・後	30	1			○	○		○		
3			○	外国語1	テクノロジー分野の英語や中国語などの基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			建築計画1	建築を計画し、デザインするための基礎知識に加え、バリアフリーなど必要とされている分野についても学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
5	○			建築計画2	住宅建築およびオフィス、店舗などの商業建築の計画手法について学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
6	○			建築一般構造1	建築構造の種類、構造材の種類および木造建築の構造を中心に学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
7	○			建築一般構造2	鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造などの構造を中心に学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
8	○			構造力学1	安全な建物を設計するための構造計算の基礎について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
9	○			建築生産1	木造在来工法と鉄筋コンクリート造の施工方法について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
10	○			建築材料	木材、石材、コンクリート、金属、ガラスなどの材料特性について学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
11	○			建築・インテリア入門	建築・インテリアの概念および建築倫理などについて幅広く学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
12	○			建築設備	快適な空間づくりのために必要な設備の基本について学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
13	○			福祉住環境コーディネーター対策	福祉住環境コーディネーター資格の試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	1・後	30	2	○			○		○		
14	○			図学・基礎デザイン	デッサン、平面構成図法、パースの作成などを通して、造形的・色彩的センスを養います。	1・前	60	2			○	○			○	
15	○			設計製図1	図面トレース、模型制作を通じて設計製図の基礎について習得します。	1・前	90	3			○	○		○		○
16	○			設計製図2	建築図面の機能と読み方、図法の種類について基礎的な事項を学ぶとともに設計製図の知識を独立住宅などの設計演習課題を通して学びます。	1・後	90	3			○	○		○	○	

授業科目等の概要

(工科技術専門課程建築設計科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
17	○			建築CAD1	コンピュータの基礎的な操作と製図の基礎を習得します。	1・前	60	2			○	○		○		○
18	○			建築CAD2	2・3次元CADを活用し、平面図・立面図などの設計図の基礎的な作成方法を習得します。	1・後	60	2			○	○		○		
19	○			建築演習1	建築に関する総合的演習を行います。	1・前	60	4		○		○		○		
20	○			建築演習2	建築に関する総合的演習を行います。	1・後	60	4		○		○		○		
21			○	海外デザイン研修1	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	1・通	30	1			○		○	○		
22			○	スポーツ実習2	様々なスポーツの実習を開講します。	2・後	30	1			○	○		○		
23			○	外国語2	テクノロジー分野の英語や中国語などの基礎を学びます。	2・前	30	2	○			○				○
24	○			建築計画3	学校、図書館などの公共施設の計画手法について学びます。	2・前	30	2	○			○		○	○	
25	○			構造力学2	構造的に安全な建物を設計するために、静定構造及び不静定構造の力学的仕組みについて学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
26	○			建築生産2	鉄骨構造やコンクリートブロック構造、建物の工事の流れや仕上げ工事について学びます。	2・前	30	2	○			○				○
27	○			建築法規1	建築を安全・快適に設計するための法規の基礎について学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
28	○			建築法規2	建築の大きさ・高さなどルールや、建築士・建設業者が守るべき規則について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
29	○			建築史	建築様式を系統的に学び、美意識の変遷、デザインと建築技術の関係を理解します。	2・後	30	2	○			○				○
30	○			環境工学	光、音、熱、空気などの室内環境に関わる基礎的な知識と建築計画への応用について学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
31	○			建築積算	設計図書や仕様書の内容および各種経費などの積算・見積に関する基礎的な知識を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
32	○			施工管理技術者資格対策	2級施工管理技術検定試験の学科試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	2・前	60	4	○			○		○		
33	○			建築士資格対策	2級建築士試験に対応した演習問題を中心に取り組みます。	2・後	90	6	○			○		○		

授業科目等の概要

(工科技術専門課程建築設計科) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
34	○			設計製図3	RC造・S造等の建築物の課題に取り組み、建築設計のコンセプトの作成、プランニング、プレゼンテーションなどの総合的な手法・技術を実習を通して学びます。	2・前	90	3			○	○			○	○
35	○			設計製図4	2年間学んだことを基礎に、都市、各種建築物などの設計を中心にまとめます。	2・後	90	3			○	○			○	○
36	○			建築CAD3	2・3次元CADを活用し、実務的な建築設計図の作成方法を実習的に習得します。	2・前	60	2			○	○			○	○
37	○			建築CAD4	CAD/CGソフトを使用し、3次元モデルや映像を作成します。	2・後	60	2			○	○			○	○
38	○			建築演習3	建築に関する総合的演習を行います。	2・前	60	4		○		○			○	○
39	○			建築演習4	建築に関する総合的演習を行います。	2・後	60	4		○		○			○	○
40	○			材料実験	主要な建築材料の力学的性質を実験により学びます。	2・前	30	1			○	○			○	○
41	○			測量実習	距離・水準・角度などの測量の方法を習得します。	2・前	30	1			○	○			○	○
42			○	BIM実習1	BIM技術における操作・表現技法などを実習を通じて身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	○
43			○	BIM実習2	BIM技術において高度な操作・表現するためのプレゼンテーション技法を実習を通して習得します。	2・後	60	2			○	○			○	○
44			○	建築・インテリア設計実習1	建築およびインテリア設計のコンセプトのまとめ方や表現技法などを実習を通して身につけます。	2・前	60	2			○	○			○	○
45			○	建築・インテリア設計実習2	建築およびインテリア設計のコンセプト、デザインを表現するためのプレゼンテーション技法を実習を通して習得します。	2・後	60	2			○	○			○	○
46			○	建築構造・設備実習1	構造設計に必要な基礎知識、照明・配線など電気設備の基礎について学びます。	2・前	60	2			○	○			○	○
47			○	建築構造・設備実習2	建物を建てるために必要な構造図面、設備図面の読み方、描き方について習得します。	2・後	60	2			○	○			○	○
48			○	建築施工実習1	建築工事のプロセスや建築現場見学を通して、建築施工の技術を習得します。	2・前	60	2			○	○			○	○
48			○	建築施工実習2	建築工事のプロセスや現場見学を通して、建築施工の応用技術を学びます。	2・後	60	2			○	○			○	○

授業科目等の概要

(工科技術専門課程建築設計科) 令和4年度																
50	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	海外デザイン研修2	海外におけるデザイン動向を現地で体験・学習します。	2・通	30	1			○		○	○		
合計							50科目	2340単位時間( 112単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1680時間(80単位)および選択科目120時間(4単位)以上取得し、合計1800時間(84単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週